

沖縄の自然環境保全に配慮した 農業活性化支援事業

石垣市赤土等流出防止営農対策地域協議会
農業環境コーディネーター　：　大浜光弘

平成24～26年度実績



沖縄の自然環境保全に配慮した農業活性化支援事業

・事業期間：平成24年度～28年度
(平成27年度から内容変更)

事業目的

赤土等流出防止対策を支援する企業・サポーター等と地域協議会を繋ぐ農業環境コーディネーターを育成し、支援組織の構築及び対策に伴う資金や労働力を確保するための手法を確立し、自立的で持続的な支援体制の運用を目指す。

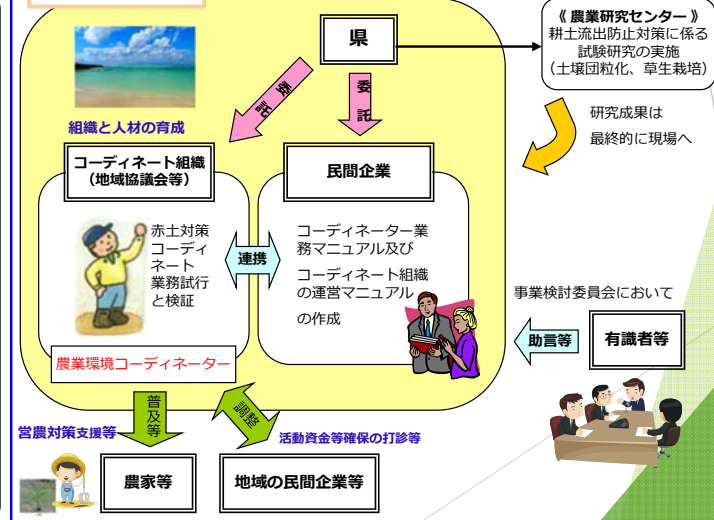
事業内容

赤土等流出防止対策を啓発普及する農業環境コーディネーターを有するコーディネート組織（地域協議会等）が、自立的かつ持続的に対策に取り組むことを目指し、県内5地区においてモデルケースを育成する。

【本事業の主な取り組み】

- ① 農業環境コーディネーターの育成
- ② コーディネーター業務マニュアル及び
コーディネート組織運営マニュアルの作成
- ③ 赤土等流出防止対策に係る試験研究

事業イメージ



1. 対策資材の支援

➤ **緑肥** (赤土抑制率：64%)

クロタラリア…90.6ha

ひまわり …40.5ha

蕎麦 …1.0ha



▶ 生分解性マルチ (赤土抑制率: 24.5%)

パイン畑...75a

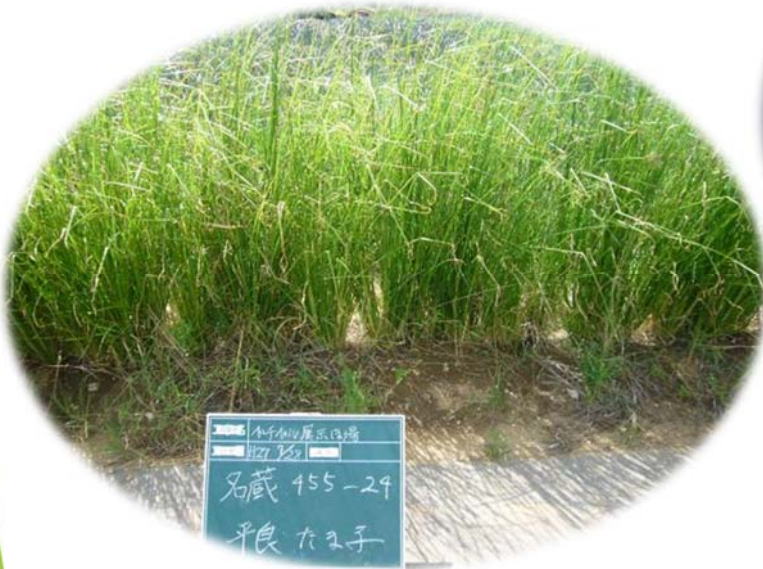
オクラ畑...1.2ha



▶ グリーンベルト (赤土抑制率: 59%)

月桃 ...1,792m

ベチベル...2,302m



▶ 葉ガラ梱包 (赤土抑制率: 29.4%) …4,817m



2. 情報収集

- ▶ 赤土流出被害調査 (平成24~26年)
- ▶ 白保海域のSPSS調査 (平成26年度)
- ▶ 赤土流出防止効果アンケートの実施 (平成26年度)



• H26 5月23日撮影(高田地区)



• 白保海域SPSS調査



▶ 赤土流出防止効果アンケート

緑肥を補助した農家151名に緑肥の効果とその他の赤土流出防止対策についてアンケートを実施し91(回答率60%)名の回答を頂いた。

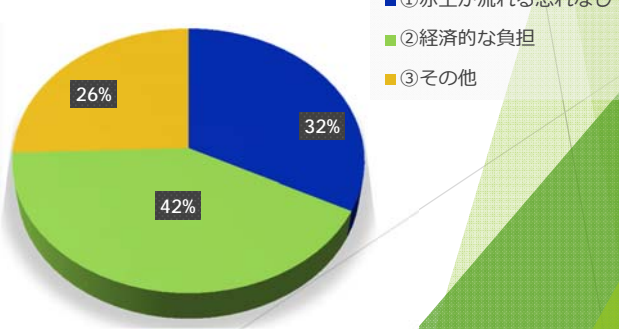
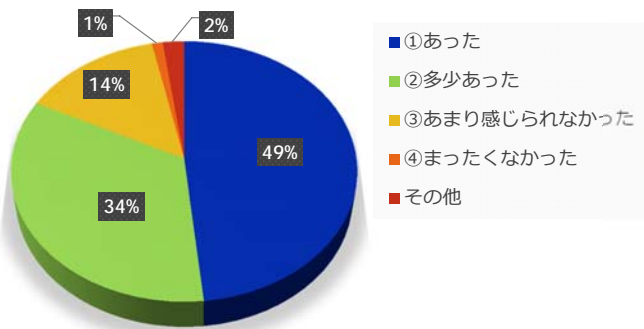
①の結果より、緑肥が赤土流出防止に対し有効であると実感している回答が84%あることから、「**緑肥は赤土流出防止対策として有効**」であることが分かる。

②の結果より、「**経済的な理由から対策できない**」といった回答が42%あり、赤土対策は農家の負担になっていることが分かる。

以上のことから、緑肥と同じカバークロスとして赤土対策となり且つ経済的な負担の軽減となる換金作物が必要と考える。

① 緑肥の赤土流出防止効果の実感

② 対策していない理由



3. 広報・啓発

- ▶ フェイスブックによる農家の取組紹介 (平成26年度)
- ▶ 赤土対策さとうきび栽培ごよみの作成 (平成26年度)
- ▶ グリーンベルト展示圃場の設置 (平成26年度)



・石垣市Facebook



・栽培ごよみ



・ベチベル展示圃場

4. イベントの参加

▶ 赤土流出防止啓発イベント「赤土deふえすていばる」(沖縄県環境保全課主催)



・石垣市が展示したパネル



・イベントスナップ写真

平成26年8月23日

▶ 八島小学校グリーンベルト植栽フィールドワーク(沖縄県環境保全課主催)



・ベチベルの植栽



・赤土対策の紹介

平成26年10月24日

平成26年度までの課題



① 自立・持続的な運営

- ・赤土流出問題は地域の問題であり、いつまでも行政の事業費で対策を支援することは困難である。

② 関係機関との連携

- ・情報交換だけに留まることが多く、具体的な対策支援を検討する機会が少なかった。

平成27年度計画・実施状況

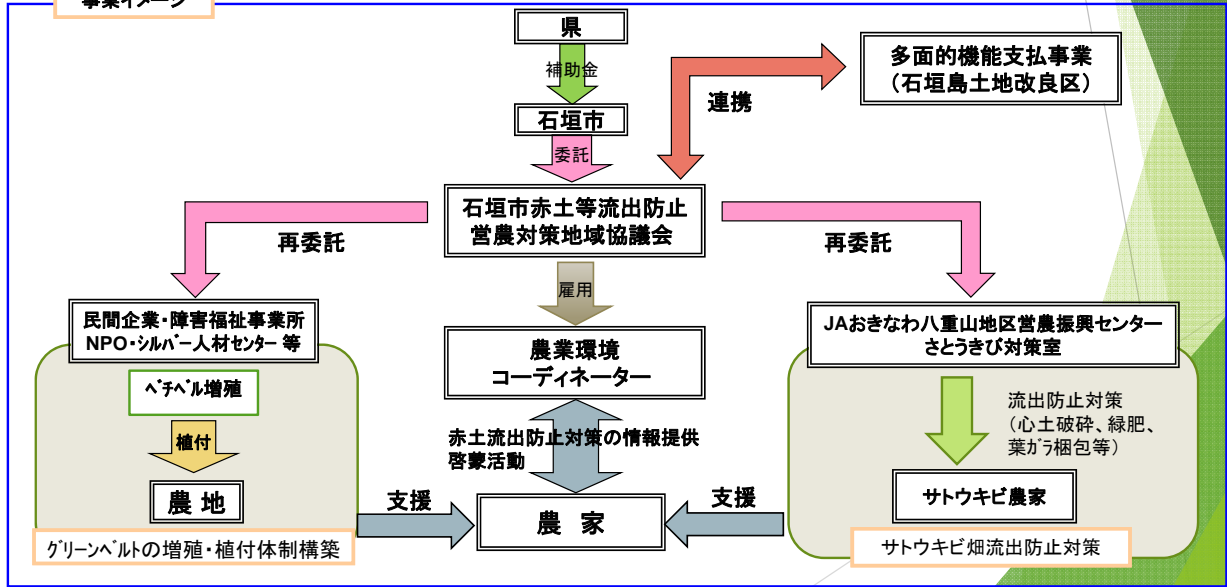


平成27年度 沖縄の自然環境保全に配慮した農業活性化支援事業

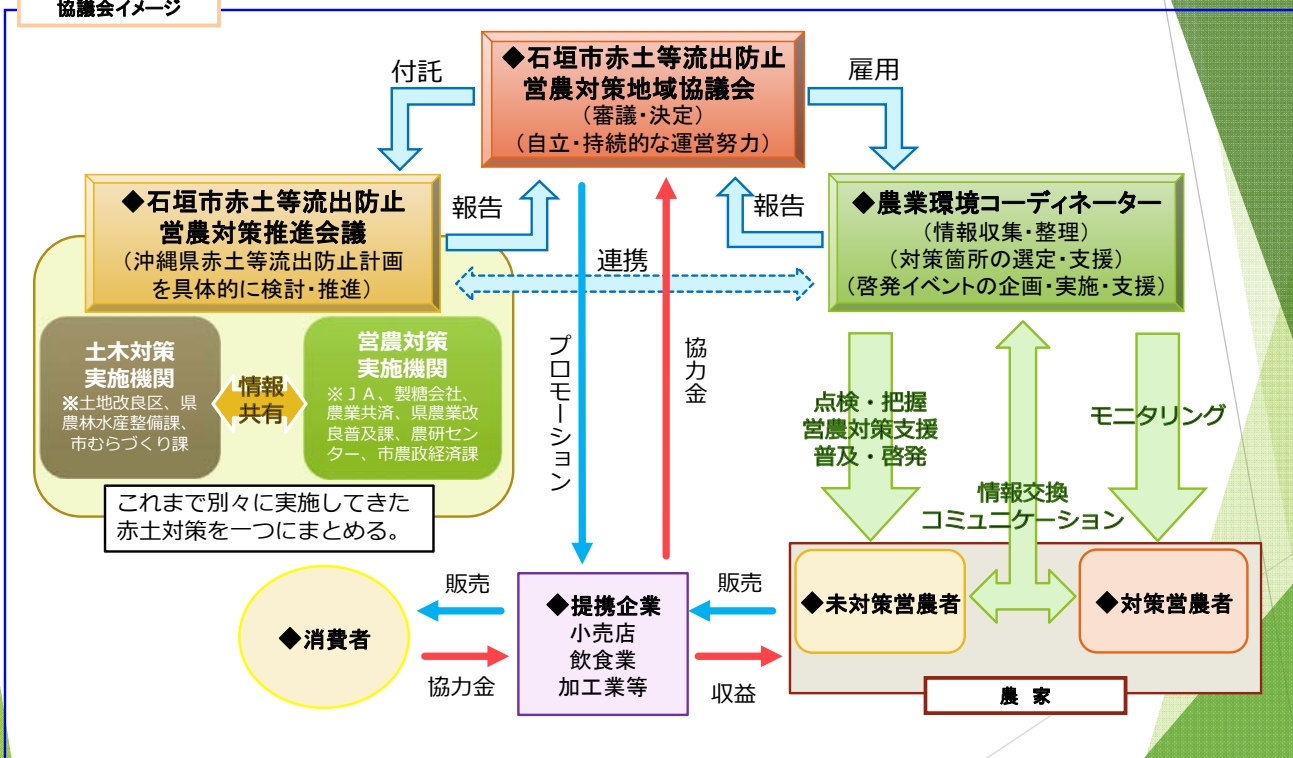
事業目的

比較的容易で効果の高いグリーンベルトの増殖・植付体制構築、さらに流出量の多いサトウキビ畑において、心土破碎や緑肥等の手法を組み合わせ重点的に対策を行い、関係機関と連携して持続的な石垣市赤土等流出防止営農対策地域協議会と営農的対策の促進を図る。

事業イメージ



協議会イメージ





今年度目標



・赤土流出量1,063 t の削減 (赤土進捗管理システムによる試算)

※平成23年度比で2.2%の削減



1. 対策資材の支援

▶ さとうきび圃場における営農的複合対策

耕地面積に占める割合の高いサトウキビ圃場は赤土流出被害が大きい。そこで、重点監視区域のサトウキビ圃場を中心に複合的な営農対策を実施する。

▶ 対策実施地区

白保・盛山・川平・伊原間... (行動計画地区)

名蔵・宮良・おもと... (重点区域内で被害の大きい地区)

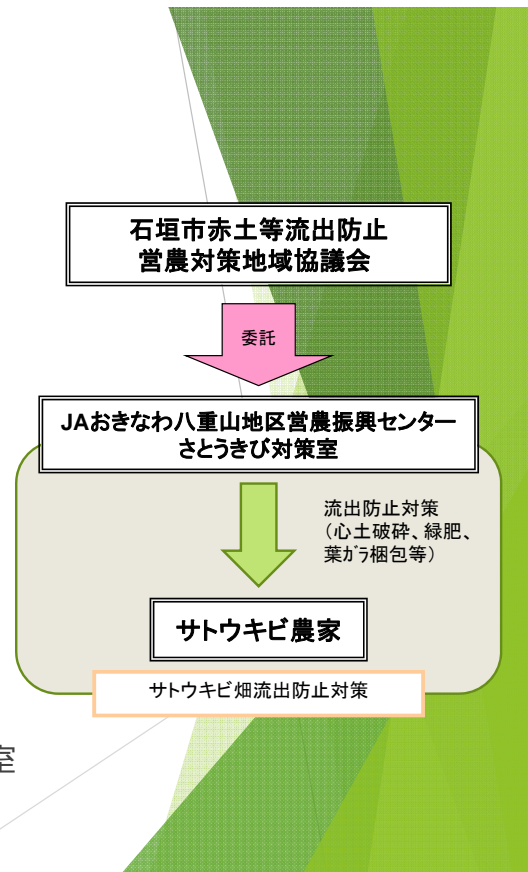
▶ 実施面積

上記地区の危険度Aランクサトウキビ圃場

合計120ha (計画)

▶ 実施内容・方法

緑肥、葉ガラ梱包、心土破碎の営農対策をJAさとうきび対策室に委託する。



▶ グリーンベルト苗増産・植え付け

沖縄県赤土等流出防止基本計画で掲げた平成33年度までに赤土流出を平成23年度比で55%削減するという目標を達成するため、9地区ある重点監視陸域に各6ha分のグリーンベルトを実施する。

▶ 対策実施地区

重点監視区域

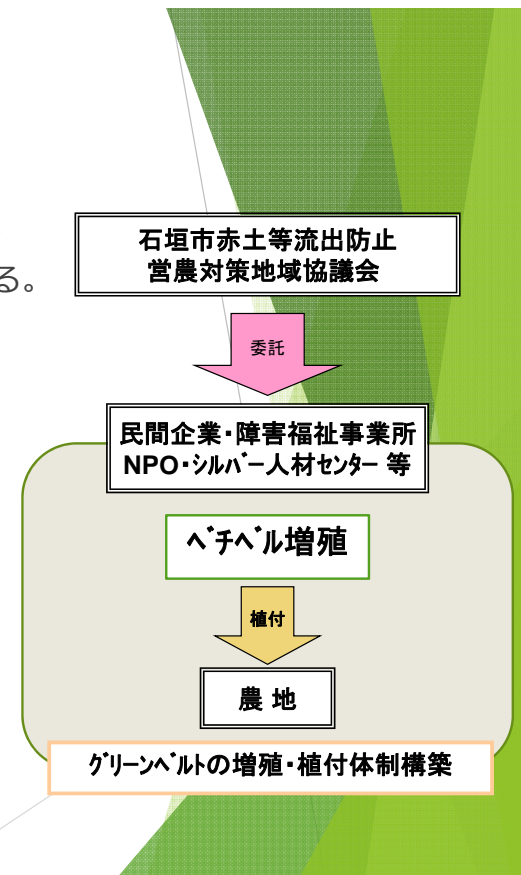
▶ 実施面積

今年度は増産をメインに行う。

増産数：54ha分（約302,400束）

▶ 実施内容

グリーンベルトの苗として使用するベチベルの増産をシルバー人材センター等に委託する。



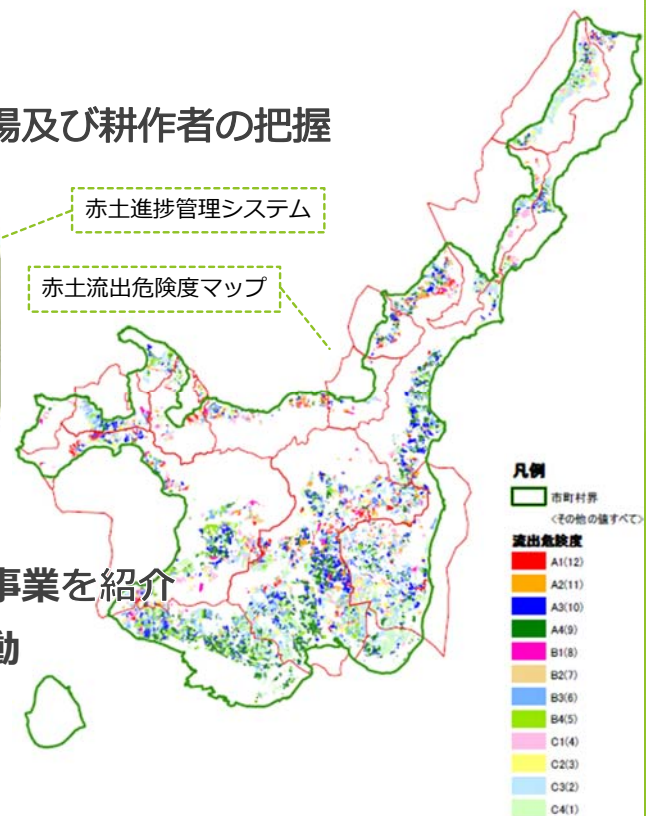
2. 情報収集

- ▶ 重点監視区域内の危険度が高いサトウキビ圃場及び耕作者の把握
- ▶ 危険度マップデータの更新
- ▶ 降雨時の被害調査実施
- ▶ 白保海域のSPSS調査



赤土進捗管理システム

赤土流出危険度マップ



3. 広報・啓発

- ▶ 甘しょ栽培ごよみ作成
- ▶ 他事業の説明会や地域懇談会等に参加し、本事業を紹介
- ▶ 地元小学校と連携したグリーンベルト植栽活動

4. イベントの参加

- **土壌保全の日グリーンベルト植栽イベント（平成27年8月20日）**
 - ・ 沖縄県八重山農林水産振興センタースタッフ主催
- **宮良小学校環境教育出前講座（平成27年10月1日、2日）**
 - ・ 沖縄県環境部環境保全課主催
- **APAP（アジア保護地域パートナーシップ）ワークショップ（平成27年11月18）**
 - ・ 環境省主催
- **サンゴの日イベント（平成28年3月5日予定）**
 - ・ 石西礁湖サンゴ礁基金主催



5. 協議会活動資金確保に係る取り組み

- **環境保全型作物のPRを兼ねた即売会**

目標達成見込み



- ・ 現在114haのさとうきびほ場に複合対策を実施予定。
- ・ しかし、12月からの記録的な長雨により、収穫の遅れが発生しているため、対策の実施も遅れている。
- ・ 今年度対策を実施できないほ場は、次年度に実施する。